

日ごろ、本ネットワークの活動にご協力ありがとうございます。今年度第3号の通信をお届けいたします。秋以降、大きな事業や近県でのシンポが続きました。宮城、福島、新潟と山形をめぐって各地で史料ネットが続々と事業を展開しました。山形もがんばりましょう！

・ * * * * * 目次 * * * * *

- 【お知らせ】 2010年度研修会開催のご案内
- 【報告】 9月21日新潟ネット資料救済活動の報告
- 【報告】 11月13日宮城史料ネットシンポ参加の報告
- 【報告】 11月27日ふくしま歴史資料ネット発足講演会報告
- 【報告】 高畠でやってみました、資料所在調査
- 【お願い】 広報に関するご協力のお願い

【お知らせ】 山形文化遺産防災ネットワーク2010研修会のお知らせ

- ・日時： 2011年1月23日 日曜日 13時～17時
- ・会場： 山形県立博物館 講堂（山形市霞城公園内）
- ・報告：
 - 「山形文化遺産防災ネットの取り組み報告と今後の課題」
小林 貴宏（山形文化遺産防災ネット）
 - 「ふくしま歴史資料保存ネットワークの課題と目指すもの」
本間 宏（ふくしま歴史資料保存ネットワーク事務局／福島県歴史資料館）
 - 「尾花沢市所蔵歴史資料の保存／防災」
大類 誠・椿井達也（尾花沢市教育委員会）
- ・実習体験：「近世文書が水に浸かってしまった！ さあ対策！！」
手代木美穂（山形文化遺産防災ネット）
水に浸かってしまった近世文書から水分を吸いだして、カビや破損を防ぐ「技」を学びます
- ・質疑と意見交換

今回は、となりの福島県で取り組みの始まった歴史資料保存ネットワークの課題と目指す方向性について福島県歴史資料館の本間宏さんよりおはなしいただきます。また、尾花沢市における歴史資料の保存・活用と災害対策、そして地域史をまとめるために収集された歴史資料の保管や継承をテーマについて学びます。併せて、文書資料が水害に遭遇してしまった場合の誰にでもできる助け方の実技を学びます。

【問合せ】 山形文化遺産防災ネットワーク事務局

住所：〒992-0351 山形県高畠町大字高畠 1348 の1 201号小林内

電話：090-5849-5532

メール：DQB00442@nifty.com

【 報 告 】 9月21日新潟ネット資料救済活動の報告

9月19～21日、新潟歴史資料救済ネットワークは平成16年中越地震で被災した山古志民俗資料館・山古志中学校寄宿舎所蔵の民具並びに古文書を返還する作業とこれまでの活動を地域の方々に報告する会を開催しました。当時、2トントラック6台・4トントラック3台分もの歴史資料を救出し、旧山古志村（現在長岡市）の長岡市立中央図書館文書資料室に専門員と資料整理ボランティアを中心に返還に向けての整理、目録づくり作業が進められてきました。山形ネットからは21日の整理作業に参加し、行政文書を地域ごとに仕分けしたり、中性紙封筒に詰めました（写真）。救済作業は数年かかることがこれまでの事例からも明らかになっており、山形での災害にはどう対処すべきかを考えるよい勉強の場となりました。（以上、手代木）



～長岡市での作業の様子～

【 報 告 】 11月13日宮城資料ネットシンポ参加の報告

標記シンポは、兵庫、静岡、千葉、宮城と全国からの報告者により行われました。内容について詳しくお知りになりたい方は、レジュメをコピーしてお譲りしますので末尾のとおり、ご連絡ください。簡単に小林の個人的な感想を申し上げます。

当たり前なのですが、「資料救済・保全活動には、各地でそれぞれの取り組み方があり、正解はない。急ぎながら、焦らず、多くの人たちと連携しながら、取り組みを進めてゆく」というのが、結論だろうと思いました。

大きな大学が取り組む宮城資料ネットと同じこと、県の博物館協議会が取り組む千葉ネットと同じことが、いまの山形でできるとは思いませんでした。でも、「できないこと」が、「しなくていいこと」「しないほうがいいこと」ではありません。今後も山形らしい方法を模索しながら、行動を積み上げてゆく必要があると思いました。

宮城資料ネットでは、事前に文化財の所在リストがあれば良かったという反省から、所在リストを作っているそうです。山形県では20年ほど前に資料所在目録というのを全県規模で作っていますが、少なくとも県立図書館で閲覧する限り、十全であるとは言えません。



～仙台市でのシンポの様子～

シンポの最後に、宮城ネットの平川さんは、こういう感じで総括されました。いろいろと考え

たり、理屈をこねたりしても、「資料に危機が迫っていたら、やるしかない」。

最後に、後進から一言。研究者や専門家主体の会でしたので、当然なのですが、みんな求めるレベルが高い、追いつけないかなあ（泣）…と。こまった。このまま行くと資料救済は、事業が展開するところと、そうでないところの二つに大きく分かれてしまう恐れがあり、その遺産が後世に継承されると言う、問題が生じてしまいます。文書館なく、県史編纂事業における資料調査の遺産も消えかかっている山形では、既にそういうことが起きている。こういう課題をどのように現実的に詰めてゆくか、は大きな問題です。具体的に。

「山形では出来ない…」ということはいくらでも数え上げられるシンポでした。しかし、いくつかの出来ることへのヒントもありました。後者への『希望』をぜひ、多くの方にレジュメから読み取っていただければと思います。

シンポのレジュメ(パワーポイントの印刷が主)50 ページくらいを希望の方にお送りします。お求めの方は送料用の切手 240 円と A 4 の封筒を事務局まで送ってください。お送りします。

【 報 告 】 11月27日ふくしま歴史資料ネット発足記念講演会の報告

標記シンポは、福島ネット発足経緯の説明と神戸大の奥村さんの講演及び意見交換を内容に行われました。内容について詳しくお知りになりたい方は、レジュメをコピーしてお譲りしますので末尾のとおり、ご連絡ください。簡単に小林の個人的な感想を申し上げます。

福島ネットの特徴

- ① 宮城ネットが東北大主体であるのに対して、福島ネットは、「福島県史学会、福島大、県立博物館、県文化振興事業団（県文書館）」の4団体が呼びかけ、主体として取り組む。
- ② 資料所在調査などについて県、市町村の協力を全面的に求める。また、業務に位置づけるような働きかけも行ってゆく。

文書館が旗を振り、大学、学会、博物館に声を掛けてゆくというスタイルで、これまでの大学中心とは違います。しかし、県内の資料について広く見渡している機関が中心に立つということは、ある意味大学よりも頼りがいはありそうです。

当時は40人ほどの参加があり、意見交換も白熱しました。

その後の打ち合わせには小林も参加させてもらい、福島山形の連携や、合同の研修などできたら良いねえと話しました。遠い親戚より、近くの他人、もしものときに協力し合えるように福島と連携を密にし、共に成長して行けたらなあ、と思いました。

詳しくは、1月23日の研修会にて本間氏よりご講演いただきます。

【 報 告 】 高畠でやってみました、資料所在調査

実は今夏以降、宮城史料ネットのまねをして、地元高畠町で資料所在調査と言うものをはじめてみました。

作業ペースとしては、週4日くらいの昼休み30分ほどと、土日の空いた時間をつかって、町立図書館の町郷土史の本から、町内に所在する資料を探し出すという作業。ひと月平均で15時間くらい。ちょこちょこできる作業でしたので、作業的に楽ちんで楽しく勉強できました。

が、甘くない！

高畠町は歴史の町を標榜しており、町史編纂は昭和40年代に始まり、県内でも極めて早く完成しました。が、その分良い意味でも悪い意味でも「昔風」でありまして、資料目録の類はありませんし、資料編もありません。その影響か、その後の編纂物も資料を目録化する習慣がなかったようです。たとえば以下の例がありました

①「・・・と言う記録がある（伊藤家文書）。」・・・何処の伊藤さん???

②「昭和初年に刊行された『@@村覚書』によれば～」・・・『@@村覚書』自体がない！

と、そんな物好きなことを昼休みにやっていたら、田舎町役場では話題になるので、同僚から「この櫃5つ、古文書」と紹介されたり、「この蔵、見ていかない？」という恐い誘いを受けたり（走って逃げました…）。う～ん、これは大変ですよ本当に。

まあ、そういうことを感じるために試してみたわけですが、こういうのをコツコツやっていくしかない、そういう輪を広げていくしかないんだなあ、と思いました。次回もネタを紹介できるようにがんばります。

広報のお願い

- お知り合いの方、興味のある方に、本ネットワークをご紹介くださいませでしょうか。
- 職場等で、回覧いただけないでしょうか。
- メールで配信させていただいている方は、転送等で紹介いただけないでしょうか。
- 年賀状の書き損じ、使わない切手などについて、ご寄付いただけませんか。通信の送料、事業のお知らせなどに有効に使わせていただきます。

切手寄付の御礼

- 前々号にて、切手寄付のお願いをしましたところ、3名の方より、お寄せいただきました。大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。

通信後記

○現在福祉部局で仕事をしております。2010年度は、町の防災会議の席上で障害者の「災害対策」をテーマに与えられ、仕事で取り組みました。関係者からの中傷や反発、関係部署からの非協力、様々なことがありましたが、作業は少しずつ進み、緊急連絡先から医療機関、搬送先、服用する薬品、ケアの留意点までリスト化し、関係者に共有化されつつあります。こういう荒波を超えて、文化財の災害対策も進んでいくんだろうなあ、と思いました。

○阪神以降様々な災害支援に関わり、この数年は文化財の災害救済に関わっています。どの現場も「気づいたら、いた」とか、「なんとなく」とか、「巻き込まれた」とか、そういう感じの人ばかりに会います。各地の史料ネットの皆さんもそう言う感じですか（失礼）。時々皆さんに聞くのです「なんで史料ネットやっているんですか？」と。ほとんどの人は答えられません（笑）。ご自分でも良くわかっておられない。私は、そう言う人を心から尊敬しています。大好きです。歴史に関わろう、文化財の仕事してみたい、損得抜きでそう言う原点がここにあるように思うからです。

でも、現実の取り組みは険しい道です。この想いをつなぎながら、かたちを結んでゆく取り組みに、「あなた」のご参集を、多くの仲間とお待ちしています。

